

がん化学療法科 ニュースレター

## ほほえみ 第9号



暑中お見舞い申し上げます。

ほほえみ読者の皆様は、いかががお過ごしでしょうか。台風が来たり、集中豪雨があったりと天候不順ですが、夏バテされていないことを祈ります。今年は電力の使用制限もあり、夏の過ごしかたにも工夫が必要になっています。暑さのピークはもう少しだと思うので体調管理に気を配ってください。

例年、個人的にはお盆も正月もないような生活だったりしますが、季節感というのはやはり重要なもので、自分の子供には、季節の移り変わりを感じられるように育てて欲しいと思います。今年は、盛岡は花火大会は取りやめなのですが、いろいろな行事に参加できるように心がけたいと思っています。

## 第9回日本臨床腫瘍学会 … のあとの夕食会

7月下旬に、横浜市で日本臨床腫瘍学会が開催されました。当科からは福田が研究発表を行いました。様々な領域の演題が出ており、特に分子標的薬などのセッションも多く、国内外からの多数の参加者がありました。

ここまでは、普段の学会風景ですが、今回は学会終了日に、昨年、チームオンコロジー・ワークショップで一緒した方々と夕食会を行いました。横浜ということで中華街で行われましたが、9名の参加がありました。そのうち、3名はJ-TOP (Japan Team Oncology Program) から、テキサスのMDアンダーソン癌センターに短期派遣されて帰ってきたばかりの方達(三浦医師、帯刀看護師、橋口薬剤師)で、更に、札幌のKKR斗南病院から、同じくMD・アンダーソン癌センターに視察に出かけていた古川医師が参加しました。

普段から、メーリングリストなどで活発に議論を行っているので、オフ会といったところですが、米国でのチーム医療の状況をいろいろと聞くことができました。単純にいうと、米国の医療は、高額な反面、医療従事者も細分化されて人員は多く、細かく分かれた職種がさらにチームを形成して診療に当たるというもので、日本の医療環境とは、かなり異なった部分も多いのですが、うまく機能したときには、高品質で満足度の高い医療を提供できているようです。

外来化学療法も多く行われ、夜中の1時までに行っているようですが、その背景には、いかに入院しないで治療するか(入院医療費が非常に高いので、入院で行うような治療も何とか外来で済ませようという背景もあるらしい)といったことも垣間見えました。例えば入院では、看護師さん一名に対し、受け持ち患者さんは個室の2名のように、人件費は相当かかっていますね。入院しないでどうするのというと、夜遅くても近くのホテルに帰るのです。

競争的な部分も多いですし、一般市民に向けたアピールも上手なようです。院内に寄付によるスペースも多く、気晴らしができるような娯楽施設(ゲームセンターのような)も、寄付で賄われているようですし、闘病中の子供達が作ったアート作品を売り出して、収益を還元するといったプロジェクトなどもあるようです。流石に米国だと思うのは、このアート作品、総額4-5億円相当の収益を上げているらしいです。

ボランティアも家で過ごしているくらいなら、病院に来て、コーヒーを飲みながら貢献したほうが良いという気楽な感覚もあるようですし、寄付したり、プロジェクトに賛同してグッズを購入するなどを、重要な社会貢献とみなす国柄なのでしょうね(加藤)。



## 第9回日本臨床腫瘍学会学術集会へ参加して

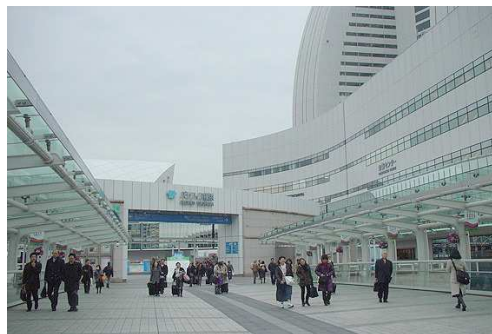
福田 耕二

2011年7月21日～7月24日にかけて、パシフィコ横浜にて第9回学術集会が開催されました。西日本で被害をもたらした巨大台風6号(マーゴン)が関東に近づいている状況ではありましたが、直前で進路を変えてくれたため7月後半でありながら涼しい環境下での開催となりました。

当院からの発表は「AFP産生胃癌における化学療法例の後方的解析」であり、2年間に経験した12例を解析して発表しました。AFP産生胃癌は全胃癌の数%程度の頻度であり、治療戦略が定まっていないため各施設でも治療に難渋しているようでした。

学術集会は腫瘍内科医のみならず、外科医・精神科医や薬剤師・看護師といった癌治療に欠かすことの出来ないチーム医療を構成する他職種の参加が多いことが特徴です。発表の内容は先進的な化学療法・手術療法に関する話題から、外来化学療法看護・薬物動態・食事療法・緩和療法と多岐にわたります。このように治療のみを突き詰めるのではなく、患者さんを支えることも学問として突き詰める日本臨床腫瘍学会の姿勢により、医師として普段見過ごしがちな他職種の考え方を勉強する良いきっかけとなります。

最終日には市民公開講座が開催され、腫瘍学の最先端に行く先生と医療を受ける側の方々・患者家族会などとの交流会があります。基本的には大都市での開催となりますが、機会がありましたら是非参加されてみてはいかがでしょうか？



パシフィコ横浜  
(日本有数のコンベンション・センターです)

## 胆道癌に対する、シスプラチンの公知申請状況に関して



胆道癌にはこれまで、主にゲムシタビン、ティーエスワンの2剤が用いられてきました。海外では英国における臨床試験(ABC-02試験)の結果から、ゲムシタビン療法に対して、ゲムシタビン+シスプラチン療法というシスプラチンの上乗せ効果が証明されています。本邦でも、このデータを勘案して、ゲムシタビン+シスプラチン療法が行えるように、複数の団体から、公知申請が出されていました。春先に公知申請が通るのではないかとこの観測もあったのですが、東日本大震災などもあったためか予定が先送りになっており、ようやく承認されそうです。

余談ですが、英国では「ゲムシタビン療法」対「ゲムシタビン+シスプラチン療法」の試験を行う際に、二次治療を認めていません。効果の不確かな治療は行わない強い意思が感じられ、それを同国民も受け入れたことにより、素晴らしい臨床試験の結果が得られたのです。世界中が英国の成果を使わせてもらっている格好ですね。

日本での一般臨床では、ゲムシタビンとティーエスワンの2剤が順次投与されることが一般的ですが、一次治療でのシスプラチンの併用が、今後急速に増加していくものと考えられます(加藤)。

### MEMO

### 8月のがん化学療法科の予定

- 8月12日 柴田教授外来
- 8月20日 公開シンポジウム「どうする今後の北東北のがん専門医療人養成」  
14時30分より アイーナ 8階 (柴田、加藤が講演します)
- 8月26日 柴田教授外来

